

## パブコメ意見例

(注) 下記意見例は、「元気な日本復活特別枠」要望に関するパブリックコメントにおいて、国立大学に関係する事業について、「3. その他この事業に対する評価(よい点)」及び「4. その他ご意見」欄に意見を記載する際の参考として、国大協事務局において種々の意見例を作成し、アトランダムに列挙したものであり、適宜ご参照の上、実際の意見の提出に当たっては、各自のお考えに従って記載して頂くようお願い致します。

(事業番号：1906)

(事業名) 成長を牽引する若手研究人材の総合育成・支援イニシアティブ

(要望額：484億円)

<科学研究費補助金等>

### 【総論】

- わが国の最大の強みは科学・技術であり、それを根底から支える研究者の研究活動のための経費、特に若手研究人材への投資はこれを惜しむべきでない。
- ノーベル賞受賞者の受賞のもととなる研究実績は若手時代に行ったものが多く、国はノーベル賞級の研究成果を期待するのであれば、若手研究者への投資をより充実すべき。
- 規模・内容を問わず、多くの研究は個々の研究者の地道な努力によって積み上げられたもの。こうした研究者の努力を支える科学研究費補助金の存在は大きく、これをより充実させることがわが国の成長に不可欠。
- 日本の若者の内向き志向が指摘されているが、この要因の一つが若手研究者の経済的不安定さから来るもの。若手研究人材への投資を充実し挑戦の原資をサポートすることが、優れた研究成果を生み出す原動力となる。
- 国から経済的支援を受ける博士学生が少ないことが、わが国の博士課程の魅力を低下させている大きな要因。博士課程の学生など若手研究人材への支援を充実すべきである。
- 「衣食足りて礼節を知る。」の言葉のごとく、若手研究人材への十分な支援こそ、若手人材に秘められた独創的で革新的なアイデアを引き出す上で不可欠。国は若手人材の声を反映し、その投資を拡大すべきである。
- 将来のわが国を支える若者に活力がなければ、わが国の明るい将来の道筋は描けない。世界に誇れる「元気な日本」の復活には、若者の活力を伸ばす重点投資が必要。

### ◆ 若手研究者のチャレンジを支援する科研費の改革(350億円)

(教員)

- 科研費の拡充と基金化などの制度改革により、「我が国の成長の原動力」である「強い人材」を育成し、科学・技術を強化することにより、我が国の持続的な成長を図っ

ていく必要がある。

- 大学の基盤的経費と共に、科研費は大学の基礎研究にとって不可欠。大幅拡充を望む。
- 若手の段階から多様な学術研究を科研費で支援していくことが長期的には我が国の成長につながる。必ず実現する必要がある。
- 科研費の基金化は、研究者を少額の研究費の煩雑な繰越し手続きから解放するもので、是非実現して欲しい。研究には予測しがたい展開がつきものであるので、基金化によって、効率的かつ効果的に科研費を使用することが出来る。

#### ◆ PDの拡充（64億円）

（教員）

- 経済的な問題や将来の身分の不安定さに対する不安によって、研究者への道を断念する学生が多いのは我が国にとって大きな損失。経済的な支援の拡充は非常に重要。

（学生）

- 経済的な援助があれば、自分の好きな研究を続けることや、将来アカデミックな世界で活躍するという自分の夢の大きな支えとなる。是非とも採用数の増を。
- 研究を続けても自活していける見込みがある程度あれば、進学や研究者になることに対する親の理解も得やすくなる。本事業に期待している。

#### ◆ 特別奨励研究員事業の創設（5億円）

（教員）

- 優秀な若手研究者が、教授の研究の一部としてではなく、個人として資金を自由に使いながら行う研究こそが、ノーベル賞級の大きな発見につながる。是非実現してほしい。

（学生）

- 特に優秀な研究者のみが採択される奨励金があれば、研究への大きなインセンティブとなる。

#### ◆ 頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣事業の創設(20億円)

（教員）

- 自分自身もPDで渡米した際に、最も研究に専念できたし、多くの刺激を受けることによって、現在の研究のアイデアの多くの種を見つけることができた。大いに進めるべき事業。
- 若いうちに海外である程度の成果を出すことは、その後の研究者としてのキャリアにも大きなプラス、本事業の創設によって、若いうちにどんどん海外に出る機会を増やすべき。

（学生）

- 海外で研究することには興味があるが、帰国後の自分の処遇を考えると現在の研

研究室を飛び出す勇気がなかなか出ない。組織的にこのような取組をしてもらえば、外国での研究のハードルが下がる。

#### ◆ 戦略的国際科学技術協力推進プログラムの拡充(8億円)

(教員)

- 内向き志向が続く中、世界各国特に東アジアの国々との科学技術協力を推進することは、我が国の将来のために非常に重要。
- 先進国の科学者との共同研究を通じ長期的な人間関係を構築することは、日本が科学技術の世界で国際的な地位を確保する上で重要。本事業の実現を期待する。

#### ◆ リサーチアドミニストレータを育成・確保するシステムの整備(5億円)

(教員)

- 研究や指導を行いつつ、研究資金の調達・管理、知財の管理・活用を実施するのは実質的に不可能な状況。それでも片手間で実施しているため、前者も後者もおろそかになっており、それが日本の競争力の低下を招いている。本事業の創設に大いに期待している。

(学生)

- 手が回らない教授の代わりに研究室の雑務（資金や知財の管理等）を実質的に行っているが、自分の研究の時間が割かれるため、専門の人材がいてくれると非常に助かる。是非実現して欲しい。

#### ◆ テニュアトラック普及・定着事業の創設(27億円)

(教員)

- 若くても独立した研究室を持つことが出来、自分の研究の追求とマネジメント能力の両方を磨くことが出来る。さらに、こうした制度が拡充、定着していくことで、研究者間の流動性が高まるため、研究環境が活性化する。この事業を是非実現して欲しい。

#### ◆ 女性研究者研究活動支援事業の創設(3億円)

(教員)

- 優秀な女性研究者が出産・子育てのために研究の道を断念することは大きな損失。研究を続けられる環境を整備するため、この支援制度を是非充実して欲しい。